

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

地球上では、オリンピックをはじめ競技ごとの世界大会などが開催され、競技者や関係者、その支援者などを含め大きなマーケットとなって活況を呈しています。これをスポーツ業界と呼べば、プロとしてスポーツを行う人々は、その支援者であるファンがいなければ職業として成り立ちません。このファンがスポーツ業界を支えているのだと言えるでしょう。

どのスポーツでも熱狂的なファンというもの存在するもので、支援する個人や団体の成績に競技者とともに一喜一憂し、その試合観戦のために仕事を選び、最大限の時間を割いて応援をしています。スポーツをする側にとっては、こうしたファンは大変ありがたいものであり、大いに歓迎すべきことです。

しかし、スポーツについては、世界を操る側の人々、日本では、GHQが日本占領で行う「3S（スリーエス）政策」として、Screen（映像鑑賞）、Sport（スポーツ観戦）、Sex（性欲）を用いて大衆の関心を政治からそらす愚民化政策の一つとして知られています。

また、アダムスキーもスポーツについては、あまり推奨していないところがあります。但し、アダムスキーは、当時、野球に詳しくたとフレット・スティクリング氏は語っています。

スポーツが良くないとされるのは、個人競技であれ団体競技であれ、相手を「打ち負かす」、競技が多いことと関係していると思います。「打ち負かす」ためには、闘争心（エゴ）を強化してあらゆる努力により自己を鍛えあげます。下手をすると手段を選ばないような状況です。

精神と肉体が超一流ともなれば、邪念を超えて安定してくると思われませんが、最高点にまで達しない人々は、確かに良い感情はないのかもしれない。熱狂的に観戦する側も、その個人の行うべき人生なのか、熱狂的歓喜などはエゴの発露ではないのかなど疑義が残ります。

スポーツ競技は、資本主義社会あるいは競争原理に合致していると思います。地球的なスポーツは、SPには必要ないものですが、地球人には、成長のために必要であり、そこから何を学んだのかを理解しつつ、燃えすぎず、勝敗にこだわり過ぎないことが大切なのだと思います。

「言葉に注目」

< このレッスンにおいて(地球の)人間は失敗しました >

『第2惑星からの地球訪問者』 G・アダムスキー著 中央アート出版社

この言葉は、アダムスキーが土星の母船に乗船した際、マスターから話された内容の一部です。この前段に庭園の美しい花々を人間に例え、背の高い花低い花、様々な色は全体の喜びであり、芳香を含めて最高者への奉仕であると語っています。また、万物は他に奉仕することによって自己に栄光を与える。万物は与えてであり受け出ると言っています。

この生き方に地球人は、失敗したと語っているのです。資本主義社会にも問題はありますが、その活用者であるはずの人間が、それに使われ貪欲になって、自己の利益ばかりを求める生き方。商い（あきない）と言われた日本の商売が、ビジネスとなり、明らかにおかしくなっています。絶対者を背骨とした利他的精神、それが求められているのだと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart106

今回は、レクチャー11「宇宙空間の探検」の『想像を絶する土星、金星、火星の実態』。初めに、「他の惑星へ旅する前に、ここでひとつ遠隔透視といわれる状態を取り上げてみましょう。」と書いています。これにより“意識による旅行”と“遠隔透視”は別であると理解されます。この現象が起こると映像が見えることから、心は周囲に関心を持たなくなると言います。「これは意識がもたらす映像に心が関心を持つため」です。「第2惑星からの地球訪問者」を読んでその人が持つ高揚感は、同じく心と意識の結合状態であると語っています。

ここからアダムスキーが体験した土星、金星の状況と意識の旅行による火星の状況について書いています。

土星については、“空が地球の空とわずかに違う”、“土星の輪のために青色が少し乳白色を帯びている”、“それはまるで息がつかまるような美しさ”、“建物は・・・空の青味かった乳白色を反射”、“自分が以前よりも別人になったような気がします”、“あらゆる人がこちらを見透すようで・・・だれもが自分の一部であるような気がします”などと書いています。

金星については、“ときたま雲が切れて日光が差し込む”、“空気は湿潤ですが重苦しくはありません”、“多数の協力者から成る政府が一つ”、“金星も万物を一体に結束する宇宙的な愛を表しています”などと伝えています。

火星については、“商業と産業が盛ん”、“ほとんど乾地農法”、“水は極冠や溶ける氷結地帯から水路で引かれ”、“塩分が豊富”、“人口急増”などと説明しています。

これらのことから、それぞれが意識による旅行により確認して欲しいということでしょう。詳細は不明ですが、遠隔透視により映像を見ながら、そこに入り込むように同調すると“意識による旅行”ができるのではないかと推察されます。まずは、試みることでしょう。

宇宙に“生きる”

<名言格言編106>

“末ついに海となるべき山水も しばし木の葉の下くぐるなり”

これは、江戸中期の歌人、伴蒿蹊（ばんこうけい）の作で、田中角栄元総理が好きな言葉として、色紙に書いては若者へ配っていたと言われています。山は海の恋人と言われ、山水は正にこの詩のとおりの動きですが、田中元総理が自分の生き方に重ねていたものと思います。



Q：チャネリングは良いことか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：精神世界の話として、チャネリングと言って高次元の存在や宇宙人とコンタクトするというものがあります。テレパシー能力が高い人が行う場合や、そうでもないものなどいろいろあるようです。浮かれることなく、正当なアダムスキー解釈を軸に対応した方が良いと思います。

書物紹介

『エゴを抑える』 ライアン・ホリデイ 著 パンローリング株式会社

著者は、アメリカのメディア戦略家であり作家です。本書では次のように書いています。「私たちは、モノゴトがうまくいかない原因は外部の世界にあると思いがちだ。お金がないとか上司に恵まれていないとか運が悪いとか。しかし実際は私たちの内部に潜むエゴこそが、最大の障害なのである。」と。その実例を著名人の言葉や行動などから拾い上げ、書物としたものです。エゴのコントロールの重要性を説いた、その点ではまれな良書だと思います。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

★東京開催★ 2024年7月20日（土）、11月9日（土）、2025年2月22日（土）午後1時30分より台東区民会館第1会議室。状況により変更があるかもしれません。

【編集後記】

私は、暇が好きではないようで、何時も忙しくしてしまいます。それも善し悪しのようです。当会のHPも、毎回お読みください。

URL：<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第106号>

発行日 令和6年7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）